

# へえ～! 「花の湯館」 へえ～! 「日本ボケ展」



発行 小須戸町中央公民館  
〒956-0101  
新潟県中蒲原郡小須戸町  
大字小須戸117番地  
TEL (0250) 38-2234  
FAX (0250) 38-3041  
編集 公民館報編集委員会

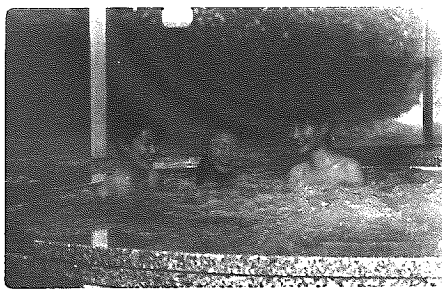


会場は春爛漫、3万鉢の花がお待ちしています。

平成7年に町民の保養の為に建てられた花の湯館はオ...

二月は、身も心も寒々とする厳寒の季節です。こんな時期に、我が町では今、身も心も豊かになる施設と催し物があります。それは町内外に好評を博している「花の湯館」と毎年恒例の三月上旬に行われている「日本ボケ展」です。みなさんも地元を再認識する意味でも、じっくりと体験してみたいかがでしょうか。

三条からおいででの老夫婦さん「ちよくちよく来るんですよ」「この温泉は湯冷めをしないですよ。寝てもそのまんなま、朝まで寝てられるのいいねえ」新津市からの友人三人組さん「近場にあるからいい」「大衆的な食堂が(去年の五月から)入ってるからいいわ」「一番安くて手ごろなのは、ここだけだね」白根の仕事仲間さん「タオル付きの為)手ぶらで来て、すぐ入れるからいい」「お風呂が掛け流しでいっぱい溢れ出て気持ちよく感じる」「休憩室が禁煙室と喫煙室に分かれていて明るく、清潔で雰囲気がいい」等々...



「おまえさんちも、なじらね～」

プンしてから、この四月十五日で十年目に入ります。最近は何々、あつちこつちに同じような温泉施設ができたために、利用者の数もわずかに減少しているそうです。しかし、去年の十二月末日での入場者合計数は百二十五万六千人にも達したそうです。なぜ、こんなにも多くの利用があるのか、利用者の生の声を集めてみました。

## ちょこっと一言 (191)

元気な声をありがとう  
昨年、動物愛護協会から、長寿動物の表彰をもらった、昭和生まれ、十五才の我が家の愛犬も。目は白内障、耳も遠くなり、足の衰えからすぐよろけて転んでしまいます。同じ場所をぐるぐる回る犬特有の徘徊行動、昼夜逆転し夜中に吠え、怒りっぽくなり、私達に噛みつきこうしたりと、ボケ症状が目立ってきました。



渡辺栄子さん

日課の散歩ももう家の前を少しだけとってしまいました。そんな老犬に毎朝声をかけてくれる可愛い元気な小学生達がいいます。もももみんなが大好き。尻尾を振って大歓迎です。立ち止まって話しかけてくれたり、撫でてくれたり、朝の楽しい時間です。明るい声はエネルギーとなつてもものの中に届くんではないでしょうか。また明日も元気な声で、「もも、オハヨ」って声をかけてね。飼い主共々待っています。

「ボケのことなら、小須戸に聞け!!」と言われる程、小須戸町は長い伝統を誇る植木・盆栽の園芸業が盛んな所です。ボケの歴史は古く明治の後半頃から今のウデコキ地域でつくられていたといわれています。現在は小須戸町・新津市・白根市を中心に全国の九十%が生産販売されています。毎年、日本ボケ協会(小須戸町で発足)では三月第一金曜日から日曜日の三日間、日本ボケ展を小須戸町で開催しています。そのイベントでは、三日間で北は北海道、南は九州まで

また、「出来ればもう少し、露天風呂が大きい」と、建設的な要望まで言つて下さる方もいらっしゃいました。関係者のお話によれば、花の湯館の利用者は、町民よりも圧倒的に町外の方の利用が多いそうです。せっかく、こんなにいい温泉施設が近くにあるのに、もつたいないような気がしませんか? 美容と健康、心身を癒すためにも利用してみませんか?

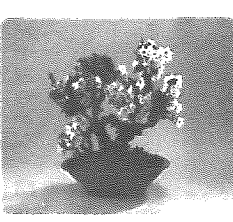
の全国各地から愛好者が延べ二万人も集まります。なぜ、こんなにもボケ展に集まるのでしょうか。その魅力をウデコキの明花園芸の加藤さんにお聞きしました。「ボケ展には、よそにない珍しい品物(ボケ)があるっけさあ」と答えられました。また宣伝活動が非常に大事なことも教えてもらいました。少しでも大勢の方々から見て貰いたいため毎年、県庁の正面玄関やふるさと村等にもボケを数週間飾っているそうです。

そして、テレビやラジオ、インターネット等の宣伝媒介は効果も高いそうで、特にNHKの全国放送にボケ展がニュースとして取り上げられると来場者数がグーンと大きく変動するそうです。ボケ展では平均一鉢二千元前後(六〜七号鉢)のものが一番売れているそうです。最後に町民の方にお知らせしましたら「ぜひ、ボケの良さを観に来てもらいたい!!」それで町が活性化すればいいんさ」と話されました。小須戸町がボケの「生産量」「品種の数」「栽培技術」のどれをとっても、日本一のことがよくわかりました。

「ボケのことなら、小須戸に聞け!!」と言われる程、小須戸町は長い伝統を誇る植木・盆栽の園芸業が盛んな所です。ボケの歴史は古く明治の後半頃から今のウデコキ地域でつくられていたといわれています。現在は小須戸町・新津市・白根市を中心に全国の九十%が生産販売されています。毎年、日本ボケ協会(小須戸町で発足)では三月第一金曜日から日曜日の三日間、日本ボケ展を小須戸町で開催しています。そのイベントでは、三日間で北は北海道、南は九州まで

また明日も元気な声で、「もも、オハヨ」って声をかけてね。飼い主共々待っています。

### お待ちしてま〜す

日本ボケ展	花の湯館						
<b>開催日</b> 3月5日(金)・6日(土)・7日(日) 午前9時〜午後5時まで ただし7日(日)は4時まで  <b>会場</b> 小須戸町民体育館  	<b>●温泉入館料</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> <tr> <td>大人(中学生以上)</td> <td>500円</td> </tr> <tr> <td>小人(小学生)</td> <td>200円</td> </tr> </table> <b>●小部屋の使用料等</b> ・1部屋…(3時間) 2,000円 <b>●開館時間・休館日</b> 開館時間 午前10時〜午後9時 休館日 毎月第2金曜日 (ただし、その日が祝日の場合は、その前日) 12月30日〜1月2日  <b>詳細</b> 花の湯館(天ヶ沢) ☎38-5800	区分	金額	大人(中学生以上)	500円	小人(小学生)	200円
区分	金額						
大人(中学生以上)	500円						
小人(小学生)	200円						
<b>詳細</b> 役場産業課 ☎38-3111(内線255)							

### 公民館よりお知らせ

〜ぜひ◎注目◎ください〜

次回3月号の公民館報では、新年度からスタートする各種教室・講座の参加者募集の記事を掲載いたします。  
みなさん、どうぞご期待ください。

### 地域、再発見

#### 児童クラブ(台)お楽しみ会

小須戸町にはふたつの児童クラブがあります。ひとつは小須戸小学校区の「こすど児童クラブ」もうひとつは矢代田小学校区の「山の手児童クラブ」です。お互いの交流が持てたらいいなあという事で、冬休みに合同お楽しみ会を開催しました。

場所は公民館の三階ホール。広い会場でワクワクドキドキの子供達でしたが、自己紹介では、大きな声で学年と名前を言うことができました。続いて、〇×クイズ、じゃんけんゲーム、ボランテアの中学生による手作り紙芝居、手つなぎおにぎり、楽しい時間を過ごすことができました。今回が初めての試みでしたが、いざれ中学校で顔を合わせる子供達です。交流を深めるためにも、第二回、三回と続けて行けたらいいなあと思います。(こすど児童クラブ大竹指導員)

# おらが地区の行事紹介

## ハツラツ笑顔で集う地藏講 (高ヶ沢地区)

高ヶ沢(矢代田第一常会)では、毎月二十三日の午後一時に集會場に集まり、地藏講と先祖の供養ということで地藏講を定期的にしています。

昔は毎月一回、メンバーの家を順番でまわっていたそうですが、

地藏講では地藏様の掛け軸を下げて、三十分間休みなしに、全員でお経を熱心に読み上げます。その時に使う数珠は参加者が数珠の実を畑で育てた手作りのものです。

お経が終わった後に、当日集まった人数分のゴシヨ(紙に、五つ玉を結んだもの)を作り、

そして地藏講に入っている家族が亡くなった時に供養のために今までに集まったゴシヨの三分の一の本数を遺骨と一緒に入れます。

そうすることで仏様が極楽に導いて下さるいわれがあることをお聞きしました。

また、全員が通夜の晩に念仏をあげたりもします。

最盛期は三十五人位も、いたメンバーが、後継者不足のために人数が少しずつ減って現在二十五人くらいです。

「わあけ人が継がねと、ねえなるね」と、全員が領いて聞いていたのがさびしうで

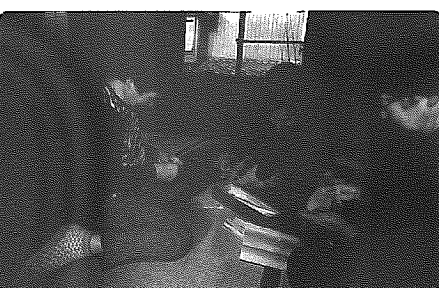
した。

しかし参加者の方々に、よくお話しを伺ってみると「高ヶ沢は気が揃ってていたいしたもんですよ」「みんなして寄るのが楽しみで、カゼひいても地藏講に来て話しをする」と語り、と一ヶ月に一回みんな顔を合わせることを張り合っているといきいきと参加していることを知りました。

地藏講に入っている方は平均年齢七十歳の女性です。最後に「(この地藏講が)続くまでやっていくだけです」というお話しを聞いて集会所をあとにしました。

記録がなくてはいけません。高ヶ沢では百年以上この風習は行われています。

昔はこのような行事が地域の主婦の交流の場となり、家



お経が終るとベテランがゴシヨづくり

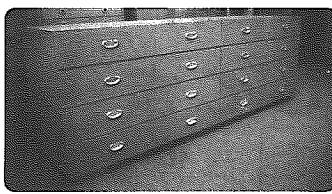
庭教育や福祉の向上、更にはその地域の融和につながっていったのかも知れません。

小須戸町でも広く、この地藏講が行われていたようです。今でも矢代田方面では、この地藏講をそれぞれの形式で第三、第四、第五常会や三分一などで広く行われています。

## 伝統工芸 野崎さん、全国公募展で佳作に入賞



この度の平成十五年度全国伝統的工芸品公募展で、小向在住の野崎宏幸さん(45)が佳作を受賞されました。野崎さんは現在、田上町にあるタンス店にお勤めで、今年の六月でちょうど二十年目を迎えるタンス職人さんです。この公募展は、伝統的なものと最新のな新しい感覚(デザイン)をまぜた工芸品を全国から集まってきた作品の中から審査します。野崎さんは「入賞した喜びよりも、この品物がみんなに認められて少しでも売上になって欲しい」と、切実に話されました。



日本の伝統を身近な暮らしに取り入れて...

通所者の作った、さおり織りや、根つけポプリを展示。

日時 三月十八日(木)～二十三日(火) 午前十一時～午後三時

会場 お茶の浅川園・三階ギヤラリー(新潟市古町七)

ほほえみ作業所作品展

この度の平成十五年度全国伝統的工芸品公募展で、小向在住の野崎宏幸さん(45)が佳作を受賞されました。野崎さんは現在、田上町にあるタンス店にお勤めで、今年の六月でちょうど二十年目を迎えるタンス職人さんです。この公募展は、伝統的なものと最新のな新しい感覚(デザイン)をまぜた工芸品を全国から集まってきた作品の中から審査します。野崎さんは「入賞した喜びよりも、この品物がみんなに認められて少しでも売上になって欲しい」と、切実に話されました。

### 文芸欄

献茶して持佛と対す淑気かな 間野良遊

水甕を傘立にして花八手 吉澤文字

賀状書くわらべのままの教へ子に 馬場綾子

陽を貰ひ葉牡丹の渦ゆるみけり 坂井隆思

神木に一徹の闇去年今年 丸山虚秋

福引をくじ運つよき子に託す 藤井春

ひとつずつ薄氷ふむ子跳んでる子 安達キヨノ

此の寒さあかるい所で根深汁 田沢弘

一望の田の沖白鳥翔つが見ゆ 間野えり

一番星見つけた孫の得意顔 我妻清作

ふきのとう芽吹き見つけた春の音 増井都留

見つかってあげる鬼さん好きな人 高橋ただし

越冬の蜘蛛を見つけた窓の隅 保科志枝

◆受付時間 午後1時～5時  
◆電話番号 38-3300  
◎お名前は、言わなくていいです。  
◎秘密は、固く守ります。

## 声の広場(投稿欄)

### 廃ってしまった小正月行事

昭和の十年前後に育った私達には当時の小正月の行事が懐かしく思い出されます。特に「団子挿し」はこの家で毎年やられた行事でした。忘れてられません。(下記参照)

当時はまだ、どこの町村でも二月正月でしたので、暮の十二月～一月は正月を迎えるのに私達農家は色々の仕事で大忙しなようでした。

大正月も過ぎて小正月を迎える十四日は、朝早くから餅つきです。あられ餅やかた餅・糍餅、等色々つくので午前一杯掛かったようです。午後からは楽しい、団子挿しです。午前中ついた糍餅を二センチ位に丸めて団子を造り準備してあるミズクサ(団子さしの木)か柳の枝に一個ずつ挿します。二メートル四方余りの枝振りです。挿すにかなり時間を要します。挿し終わると茶の間に下り

げ、こんどは大黒様や大判・小判に依・大根・かぶ等、色とりどりの煎餅を付けますのでほんとに見事でした。この飾りは十七日のお昼から下して団子を一個ずつもぎ取ります。

私の祖母は、この行事は百姓がその年の五穀豊穡を願う行事で団子を挿す事を田植、もぎ取る事を、取入れ、と教えられました。

もぎ取った団子は乾かして春、野山に仕事に行く時など焼いておやつ代りに食べます。何時の時代から始まったか知らぬ、先人達から受け継がれ、豊作を願う、そして無病息災を祈念する素朴な祈りの色々な行事も、戦争から敗戦と苦しい激動の時代の推移に依って、私達の集落ではほとんど廃ってしまったようですが、毎年小正月を迎える度に懐かしい思い出となっています。

須佐弥之助(水田)

神棚、仏壇、家中、全てをすす払い拭き掃除をし、一年間の汚れを落とす。茶の間、台所など新しい菅笠や藁蓑に数き替える。

当時たいていの家で自家用として豆を煮て「團子」に入れて作った。

各家で早朝から団子をつくが、いく日もついた。「お供え餅」なども作る。午前中ほとんど終える。

門松を玄関、神仏などに飾り、鮭やノツペで早めの歳とり(夕食)をする。そしてお宮参り。

鏡餅、御神酒など、神仏にあげる。早朝にお参りする。

親戚、近所へ年賀の挨拶まわり。

七草粥とも言うが、たいていの家は雑煮蔵の扉を開き、御神酒、供物を供える。豊作を祈願して朝食前に「荷籠」を一つし、糍餅を一つに供える。

早朝餅つき、糍は大餅の半分くらい。午後準備してある木の枝に小さい餅を挿したり、大黒様、大判、小判、マユ玉(ゼンハイ状)等を下げて茶の間に飾る。

各村で「力所」くらいで、竹を細く巻を巻いて古いお札や神具などを焼く行事。(火を入れるのは十五日)夕飯後お宮参り。早朝「モグラ」追い、小籠に湯を付けて引く。柿の木の葉をやる。木にナタで傷を入れて問答掛け合ひして着てすりこんでやる。(今年も柿がいつばいなるように)十四日に飾った餅などをとり、春の野良仕事の合間におやつとして焼いて食べる。小正月等のお供え物を下げる。

月日	行事	内容
十二月十日	大掃除	神棚、仏壇、家中、全てをすす払い拭き掃除をし、一年間の汚れを落とす。茶の間、台所など新しい菅笠や藁蓑に数き替える。
二十五日	納豆煮	当時たいていの家で自家用として豆を煮て「團子」に入れて作った。
三十日	餅つき(大餅とちぎ餅)	各家で早朝から団子をつくが、いく日もついた。「お供え餅」なども作る。午前中ほとんど終える。
三十一日	大晦日(「歳とり」又は「歳夜」とも言う)	門松を玄関、神仏などに飾り、鮭やノツペで早めの歳とり(夕食)をする。そしてお宮参り。
元日	お供え	鏡餅、御神酒など、神仏にあげる。早朝にお参りする。
二日	お宮参り	親戚、近所へ年賀の挨拶まわり。
三日	年賀巡り(年始参りとちぎ餅)	七草粥とも言うが、たいていの家は雑煮蔵の扉を開き、御神酒、供物を供える。豊作を祈願して朝食前に「荷籠」を一つし、糍餅を一つに供える。
七日	七草	早朝餅つき、糍は大餅の半分くらい。午後準備してある木の枝に小さい餅を挿したり、大黒様、大判、小判、マユ玉(ゼンハイ状)等を下げて茶の間に飾る。
十一日	蔵開き	各村で「力所」くらいで、竹を細く巻を巻いて古いお札や神具などを焼く行事。(火を入れるのは十五日)夕飯後お宮参り。
十四日	小正月 餅つき	早朝「モグラ」追い、小籠に湯を付けて引く。柿の木の葉をやる。木にナタで傷を入れて問答掛け合ひして着てすりこんでやる。(今年も柿がいつばいなるように)十四日に飾った餅などをとり、春の野良仕事の合間におやつとして焼いて食べる。小正月等のお供え物を下げる。
十五日	モグラ追い	
十六日	柿の木の葉	
十八日	マユ玉を下げる	
二十日	お供え物を下げる	



すごい炎で、感動した

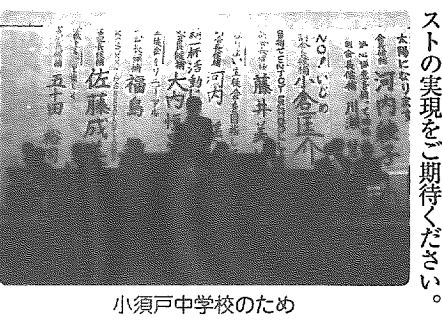
### 生徒会バトンタッチ

新しい年が始まりました。小須戸中学校では、三年生がそれぞれの希望進路実現に向けて、ラストスパートをかけて奮闘しています。

さて、生徒会本部の組織も三年生から二年生へ、バトンタッチが行われました。

新生徒会では、数年ぶりに女性会長の誕生となりました。バイタリティーあふれる彼女に全校の期待が集まっています。

新役員は皆、「いじめのない楽しい学校づくり」「規律ある学校生活」「積極的なボランティア活動」を中心に「より良い小須戸中学校づくり」を訴えかけていました。皆それぞれに理想の学校像を



小須戸中学校のため